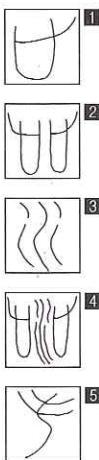


甲骨文が刻まれた骨のレプリカ



「**5**」は「手」という字で、これを  
使ってどのような字が作られたか見て  
みましょう。「**6**」は「又」という字  
で「右」の初文（初めてできた字で、  
甲骨文が基本になっている）となりま  
す。「**7**」が「友」という字となる理

有史に入つて、殷時代、神言しんげんを記録するためには甲骨文を用いました。亀の甲羅または牛の骨に小さな穴を開け、火で熱してそれに水をかけますと、鱗ひびが入りますが、それが神の回答とされました。それを卜人ぼくじんという占い師が記録したのが甲骨文です。

その甲骨文の例をいくつか上げて、文字を作った古代人の知恵を考えてみましょう。

「**1**」は「足」という字。この字を左、右に書くと「**2**」となり、左右の足を動かすと前に進むので「歩」となります。「**2**」の間に「**3**」（水）が入ると、これは川という字なので、「**4**」となつて川をわたつたことになり、「涉」わなるという字になります。

文字 자체がそれぞれ意味を表すものを表意文字といいます。  
その関係で部首があり、文字が分類されています。例えば「月」は明るさに関する文字、  
「月」にづき（肉）は臓器に関する文字となります。

ではどのように作られてきたかを振り返ってみましょう。

神話時代の三皇五帝、その五帝の黄帝の臣で倉頡そうけつが動物の足跡からヒントを得て文字を作つたとか、庖犧ぼうぎ（伏羲）は三皇の一人で、八卦を描き文字を作つたと言われています。

漢字は書体の変遷をしながら、現代まで引き継がれてきた文字で、古代の文字でも、発音と意味を理解することができます。ただし、固有名詞の中で名字と地名が歴史上で消滅している字に関しては、どのように発音するのか判らないものがあります。

中国で最初に字典を作った後漢時代の許慎きよしんという儒学博士は、字典名を『說文解字』せつもんかいじとし、それを「文を説き、字を解す」書物と説明しています。「文」とは「魚」や「鳥」のように分解できない単体漢字、「字」とは「鮮」や「鳩」のように文が合わさせて作られた複合漢字、つまり漢字は「文」と「字」で成り立っているのです。

## 一 表意文字